

令和 2 年浦安市教育委員会第 2 回臨時会会議録

浦 安 市 教 育 委 員 会

令和2年浦安市教育委員会第2回臨時会

- I. 日 時 令和2年8月6日(木)
開 会 午後3時00分
閉 会 午後4時41分
- I. 場 所 市役所4階 S5会議室
- I. 進 行 教 育 長 鈴木忠吉
- I. 出席委員 教育長職務代理者 宮道 力
委 員 宮澤 ミシェル
委 員 舘 里 枝
委 員 吉 野 則 子
- I. 出席説明者 教 育 総 務 部 長 白石嘉雄
教 育 総 務 部 参 事 大友隆司
教 育 総 務 部 次 長 醍 醐 恵 二
教育総務部副参事(教育総務課長) 河 野 良 江
指 導 課 長 丸 山 恵美子
生 涯 学 習 部 長 八 田 吉 浩
生 涯 学 習 部 次 長 島 崎 浩 一
- I. 傍 聴 人 20名
- I. 案 件
第1. 審議事項
議案第1号 令和3年度使用教科用図書の採択について

開 会 (午後 3 時 00 分)

鈴木教育長 これより令和 2 年浦安市教育委員会第 2 回臨時会を始める。
傍聴人の方にお願ひする。
お渡しした傍聴券の裏面に記載されている傍聴人の遵守事項について
守っていただき、傍聴されるようお願ひする。
それでは、直ちに議事に入る。
議事の第 1. 審議事項である。
議案第 1 号 令和 3 年度使用教科用図書の採択についてを議題とする。
事務局の説明を求めらる。

白石教育総務部長 令和 3 年度使用教科用図書の採択について、提案理由の説明を申し上げる。

本案は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条第 5 項の規定により、令和 3 年度に使用する学校教育法第 34 条、第 49 条及び学校教育法附則第 9 条に規定する教科用図書について採択をしていただくため、提案するものである。

千葉県教育庁葛南教育事務所管内の浦安市、市川市の両市教育委員会が教科用図書葛南西部採択地区協議会を設置し、令和 3 年度に使用する教科用図書について協議してきた。

その結果、令和 2 年 7 月 17 日付で、令和 2 年度教科用図書葛南西部採択地区協議会会長から、令和 3 年度使用教科用図書に係る令和 2 年度教科用図書葛南西部採択地区協議会の協議結果について報告があった。選定された小学校用教科書、中学校用教科書、特別支援教育に関する教科書の種目及び発行者等については、別紙表 1 から表 3 のとおりである。

また、令和 2 年度教科用図書葛南西部採択地区協議会規約では、教科書採択の業務は 8 月 31 日までと定めており、採択結果等の公開は 9 月以降とする。

詳細については指導課長から説明する。

鈴木教育長 令和2年度教科用図書葛南西部採択地区の協議会からの選定結果を受けて、本市として採択についての審議を行う。取扱注意とさせていただいた資料の表の1から3が選定結果となる。各委員には忌憚のない意見、質問をお願いします。

それでは、それぞれの教科における教科用図書の選定理由について伺う。

まず、国語、書写、社会科の各分野、地図から伺う。

それでは、事務局より説明を求める。

丸山指導課長 令和2年7月15日に令和2年度第2回教科用図書葛南西部採択地区協議会を、令和2年7月16日に令和2年度第3回教科用図書葛南西部採択地区協議会を開催し、令和3年度に使用する小学校・中学校教科用図書及び特別支援教育に関する教科用図書について、研究調査委員の報告を受け、同協議会において協議、選定を行った。それぞれの教科等について、選定結果と理由を述べさせていただく。

表4に示されたものが中学校用令和3年度使用教科書出版社一覧になり、こちらから選定した。

国語の教科書について説明する。

東京書籍は、各教材「目標」、「問いかけ」から「ふり返り」の3ステップで構成し、主体的な学びの実現を促している。特に「ふり返り」では、学んだことを自分の言葉で表現するようになっており、主体的な学習の振り返りができるように工夫されている。

三省堂は、多様で現代的な諸課題を取り上げて、2つの情報の関係を捉えたり、考えを整理したり、深めたりする方法が示されている。

光村図書は、「見通しを持つ」から「振り返る」という学習の流れを明確にしている。学習課題に個の活動と集団での活動を設定することで、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう配慮されている。

最後に、教育出版である。国語は教育出版を選定した。単元冒頭に学習目標、学習の目当てや手立てを明示し、主体的に学習に取り組める配

慮が多く見られる。

また、それぞれの教材の最後に「広がる本の世界」として、読書に親しむきっかけを作り、学びの実現を促している。本市では図書館教育に力を入れているため、読書指導のページが充実していることは、豊かな学びを推進していく上で有効であると考えた。

さらに、全学年で1年間の学習の見通しがスタートからゴールまで図式的に示されて見やすくなっていることから、教育出版を選定した。

書写の教科書について説明する。

東京書籍は、「みつけよう」を活用することで、自分の課題を見いだす工夫がされている。各単元の終わりに「振り返って話そう」の場が設けられており、対話を通して学びを深める内容になっている。「書写のかぎ」と鍵マークが連動しており、学んだことを確認しながら深い学びにつながることを期待できる。

三省堂は、豆電球マークの「書き方を学ぼう」で各教材の目標が示され、何を学ぶのかが明確になっている。そこから振り返りのマーク、また、「書いて身につけよう」まで学習の流れが分かりやすく、学びが深められるようになっている。

教育出版は、冒頭の「書写をとおして学んでいくこと」で、書写を何のために学ぶのかが分かりやすく書かれており、生徒が見通しを持って主体的に学習できるような工夫がされている。

続いて、光村図書である。書写は光村図書を選定した。

冒頭に3年間の目標が示されており、どのようなことを学んでいくかが理解しやすくなっている。対話を通しての活動が盛り込まれており、思考力、判断力、表現力を養えるようになっている。余白が多く、鮮明に印刷されており、生徒にとって、とても見やすくなっている。毛筆の手本は原寸大となっており、活用しやすいことも特徴である

続いて、社会（地理）の教科書について説明する。

4社とも写真や資料が見やすく掲載しており、問題解決的に学習が進められるように配慮されている。

東京書籍は、章ごとに探究課題が示されており、学習課題を一つ一つ

解決していくことで、探究課題に迫ることができるように構成されている。

教育出版は、毎時間、「確認」、「表現」のコーナーが設定されており、言語活動を意識した教育活動が取り上げられている。また、50か所ほどある「地理の窓」では、補充的、発展的な学習にも配慮されている。

日本文教出版は、本文のページの見開きに、学習課題とともに地理的な見方、考え方を提示し、地理的事象を多面的に考察できるよう構成している。

最後に、帝国書院である。地理は帝国書院を選定した。

帝国書院は、章ごとに「章のねらい」、節ごとに「節の問い」というように単元を貫く課題が設定され、1単位時間ごとの学習課題につながるようになっている。これらのサイクルを積み重ねることで深い学びにつながり、問題解決学習の充実に向けた構成になっている。

また、QRコードが充実しており、動画などの資料も多く、主体的な学びを促すとともに、情報活用能力も育むことができると考える。

社会（歴史）の教科書について説明する。7社の中から選定した。

東京書籍は、課題のまとめ方の方法である思考ツールが掲載されている。クラゲチャート、Xチャート、ピラミッドストラクチャなどである。これらのツールを活用することで思考を整理し、深め、思考力・判断力・表現力を高める学習を促している。

教育出版は、小学校や高校との接続に特徴がある。小学校で学習した事柄には、130ページの松尾芭蕉のように巻物マークがついており、振り返りがしやすくなっている。一方、「歴史を探ろう」では、発展的な内容を取り扱うことで、高校、歴史総合へのつながりを意識したものになっている。

山川出版社は、高校の教科書で取り上げられるような内容を中学生でも分かりやすく、焦点を絞って示されており、高校の学習内容との接続を意識したつくりとなっている。

日本文教出版は、写真や絵画などの資料が大きく、特に文化史を学ぶ際の興味、関心を引きつけるようになっている。

育鵬社は、「私の歴史博物館をデザインしよう」というコーナーが全部で6か所あり、展示資料の選択、解説作りを通して、まとめ方や表現力を育成することができる。

学び舎は、資料や単元名が独特で、例えばペリー来航の資料には、ペリー艦隊を見にいく庶民が描かれたものを使っている。また、第一次世界大戦後の文化の学習では、「チャップリンが来た」、戦後の教育についての学習では、「走れ、ぞう列車」など、生徒の関心を引きつけるような工夫がされている。

最後に、帝国書院である。歴史は帝国書院を選定した。

帝国書院は、各章導入部分のタイムトラベルが、その時代を表す重要な場面をよく表現している。時代のイメージを具体的に持ち、学習課題をつかむ画面や学習内容を視覚的に確認することにも使うことができ、スムーズに歴史への学びに入っていくことができる。

また、「章の問い」、「節の問い」、「学習課題」が設けられ、順序立てて学習ができる構造になっている。単元ごとに「確認しよう」、「説明しよう」が掲載されており、言語活動を通して思考を深めることができる工夫がされている。

そのほか、写真、図表、イラストなどが見やすく、世界遺産や国宝には、その写真にマークがついていて、一目で分かるようになっていたり、「技能をみがく」には、歴史に関する基礎的な技能が身に付くコラムを掲載していたり、QRコードが充実していたりするなど、主体的な学びが期待できる。

続いて、社会（公民）の教科書について説明する。6社の中から選定した。

教育出版は、各章ごとに見通し、振り返りを設けたり、1時間の授業ごとに知識、技能を基に思考、判断、表現する場面を設けたりすることで、学習の定着を図っている。

帝国書院は、各章の冒頭にイラストの導入ページを設け、その章で学習する内容を概観することで、生徒に実社会に興味を持たせ、学び心を引き出す導入となっている。

日本文教出版は、見開きページの初めには、「見方・考え方」が明示され、授業で課題を解決したり、まとめたりする際の手がかりになるよう配慮されている。

自由社は、「ミニ知識」や「もっと知りたい」などの補充、発展的な学習に工夫がある。

育鵬社は、見開きのページが「つかむ」、「調べる」、「まとめる」という構成になっており、問題解決型学習の流れを明確にし、学習のまとめでは、多様な言語活動に取り組めるようになっている。

最後に、東京書籍である。公民は東京書籍を選定した。

東京書籍は、各章の初めの導入の活動で大きなイラストが掲載され、章の学習を貫く探究課題に迫れる内容になっており、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫がされている。

また、多様なまとめ方を活用したり、まとめの後に、「もっと公民」や「公民にアクセス」というコーナーで学習を進化、発展させたりするなど、学習意欲が継続するような工夫が見られる。

「みんなでチャレンジ」というコーナーでは、見方、考え方を働かせて対話的な活動ができ、「スキルアップ」では、公民の基礎的な技能を身に付ける課題が用意されていて、生徒の対話的・主体的な学びを導く構成となっている。様々な活動を通して、生徒の表現する力を育むような工夫もある。

最後に、地図の教科書について説明する。地図は、東京書籍と帝国出版の2社である。2社とも生徒の意欲を喚起させる工夫があったり、さらに、深く学びたい生徒への資料、発展教材等が記されたりしている。

東京書籍では、生徒の関心、意欲を引き出すために、探究活動に対応した資料を多く掲載している。また、グローバル化に対応して、SDGsを地図帳の巻頭に配置し、現代社会の課題を解決するためとして、6ページにわたる資料とともに大きく扱っている。

地図は帝国書院を選定した。帝国書院では、「地図活用」という技能を身に付けるコーナーが94か所用意され、自分で地図帳を活用して答えに迫っていくような仕掛けを設け、主体的に学ぶ工夫がされている。

カラーバリエーションが豊富で、高低差までつかみやすいことに加え、サイズをA4判と一回り大きくしたことにより、表示する範囲が広範囲となり、近隣とのつながりまで見ることができるようになっている。

国語、書写、地理、歴史、公民、地図の説明は以上となる。

鈴木教育長　　ただいま説明がなされた国語、書写、地理、歴史、公民、地図について、質疑を行う。

委員　　教育出版の説明において、生徒が主体的な学習に取り組みやすいという話があったが、具体的にはどのような部分を指しているのか。また、国語については、デジタルコンテンツがあまり重要視されていないかと思うが、例えば、古文は独特の読み方であるため、自習の助けになると思う。教育出版の音声データは、どんなものがあったのかを教えてください。

丸山指導課長　　まず、1点目の主体的な学習に取り組みやすい具体的な部分についてだが、教育出版は、教材ごとに学習の見通しが明確になるように、その教材での学習の重点や、学習内容の観点を設定してある点が教育出版の特徴となっている。

もう少し具体的に申し上げると、「学びナビ」という項目を設けて、主体的に学習に関わる構えをつくり、学びが深められるよう工夫がされている。

2点目のデジタルコンテンツについては、読み方に関する音声データはないが、解説資料や補助資料等が多岐にわたって用意されていることが自習や家庭学習での助けとなると考えている。

委員　　SDGsの現代的な課題に向けての各教科書での特徴を教えてください。

委員　　国語の場合はとくに魅力的な題材が重要であると思うが、そういった

点でよかったという出版社があれば、教えていただきたい。

丸山指導課長　　まず、1点目のSDGsについてだが、SDGsの現代的な課題については、4社とも盛り込まれている。

教育出版については、各領域でSDGsを取り入れたような話題や、題材などを設定し、生徒一人一人が課題の発見や正解のない問いに向き合って考えを深められるような工夫がされていると思う。

2点目の魅力的な題材についてだが、この4社の中では、光村図書が魅力的な作品が大変多いという評価結果を聞いている。生徒にとっては身近な作家や話題になった作品を取り上げているということがある。例えば、「君たちはどう生きるか」など、話題性のある作品を取り上げている。

教育出版は、話題性のある作品もあるが、名作と言われている作品や、時代に流されないような昔からある作品を取り上げており、例えば、「オツベルと象」などを使い続けているというような特徴がある。

鈴木教育長　　国語の教科書と書写の教科書は同じ出版社ではなくても特に問題はないのか。

丸山指導課長　　小学校では、教科書に出てきた題材を引用して書写の授業を行うことが多いため、国語の教科書と書写の教科書は同じものを使っているが、中学校の場合には、国語の教科書と関連させる内容がないため、同じ教科書を使わなくてはいけないということはないと考えている。

委　　員　　書写について質問する。今回の教科書全体に言えることだが、デジタルコンテンツがどれも充実していたように思う。毛筆は、少しテクニックが必要であるため、得意ではない先生方にはデジタルコンテンツがとても有効であると思うが、会社によって異なる点はあるのか。

丸山指導課長　　どの教科書会社もデジタルコンテンツは用意されているが、それぞれ

特徴があり、動画で筆遣い等を示しているような教科書は、東京書籍、教育出版、光村図書となる。映し方が真上から映しているものや、斜めから映しているものなど多少違いはあるが、三省堂は毛筆動画はないという結果であった。

委員 書写の教科書の大きさを比べると、2社は少し大きく、ほかの2社は普通のA4判となる。使用する側にとっては、使い勝手はいかがか。手本として置く場合に、何か問題はあるのか。

鈴木教育長 現場の意見を伺いたい。

大友教育総務部参事 実際に生徒が文字を書く際には、当然、お手本を自分の机の上に置いて書くことになるため、大きさの比較を考えたときには、実物大のほうが、非常に書きやすいと思う。

ただ、デジタルコンテンツが非常に発達しており、黒板に大きく表示されたものを見ながら書くこともできる。また、机の大きさも限られているため、子どもたちが学習する環境に合った大きさが一番よいと考える。

丸山指導課長 光村図書の教科書のお手本は、見開きで縦に使った状態で大きくお手本を載せているのが特徴となる。余白もしっかり取れており、文字の大きさも実物大になっているため、子どもたちにとっては使いやすいと思う。

委員 地理の教科書について、領土問題は各社で違いはあるのか。また、地域の調査の単元で、京都や奈良など、いろいろな地域が取り上げられているが、取り上げている地域や都市により影響はあるのか。

丸山指導課長 まず、地域調査の単元についてだが、地域調査の単元は、主に地図記号や地形図について学習するような単元となるため、どこの地域、都市

を取り上げても影響は大きく受けることはないと認識している。

領土問題の記述については、北方領土、竹島、尖閣諸島について掲載している教科書は、東京書籍、帝国書院、日本文教出版となる。

東京書籍は、それぞれの地理的な特色を考える学習ということで設定しており、調査の結果、本文についての記述は3行程度となっている。

帝国書院、日本文教出版については、重要語句ということで記載をされているため、本文2ページほどの量で記載され、2社とも尖閣諸島については、領土問題はないという記述となっている。

教育出版は、北方領土のみを重要語句として記載している。

委員 社会科の教科は、幅広い考えがあると思う。教員が知識を習得するためには、いろいろな教科書や参考書を見て、授業を膨らませることが望ましいと思う。現場の教員としては、考え方がフラットなものがよいかと思うが、いかがか。

丸山指導課長 1つの考え方だけを教えるということではなく、様々な考え方があることを提示しながら、こんな考え方もあるなど、1つの課題に対しての多面的な見方や、多角的な見方を育てていくのも教育だと思っている。生徒の主体的な学びを行っていくという点については、幅広く考えることができるような題材が載っている教科書がいいと思う。

委員 地図について、選ばれた帝国書院は大きい教科書になるが、鞆に入れるときに支障はないのか。

丸山指導課長 帝国書院の地図が大きくなったという点は、とてもよい点である。生徒が持っているノート等も今、A4判が多いので、大きさについては、使用しているノートやファイルと同じ大きさであるため、支障はないと思う。重さについても調査したが、逆に軽量化されており、負担にはならない程度の重さになっている。

鈴木教育長 最近、教科書もノートも大きくなっている。これは中学校だが、小学校のランドセルにも少し入れやすくなっているという傾向である。

学校現場の先生方の意見などは聞いているか。

大友教育総務部参事 学校現場の先生方の意見は、毎年、教科書に関するアンケートを実施し、集めている。昨年末の先生方の意見となるが、特に社会科の教科書については、題材のバランスや単元の学習の道筋がしっかりしている、学習問題がはっきり分かりやすく、子どもたちが学習しやすいもの、併せて、写真や図、グラフなど、資料が充実しているものがよいといった意見が出ている。

また、いろいろな子どもがいるため、ユニバーサルデザインの規定など、子どもたちにとって学びやすい教科書がいいという意見も出ている。

鈴木教育長 ほかにないか。よろしいか。

それでは、次に、数学、理科、音楽についての選定理由を伺う。

丸山指導課長 それでは、数学の教科書について説明する。7社の中から選定した。7社とも質、量とも充実した内容になっている。

まず、東京書籍は、現代的な諸課題に対応して求められている資質、能力を教科等横断的な観点に基づいて育むことができるよう、ジャンル分けして各学年で取り上げるように工夫がなされている。

次に、大日本図書は、各章の活動で複数の生徒の考え方を提示し、それを読み取って比べることを通して多様な考えを認め、よりよく解決しようとする態度が養えるようになっている。

学校図書は、キャリア教育の一環として、全ての学年において学習に入る前に、数学を実際の仕事に役立てている人のコラムを掲載し、これから学ぶ数学の内容の有用性を実感することができるようにしている。章末では、学んだ内容が実生活のどのような場面で役立っているかをコラムで紹介して、学習意欲を高める工夫がなされている。

教育出版は、キャラクターの対話を通して既習事項を確認したり、数

学的な物の見方、考え方の道筋を見通すことにつなげたりして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた構成になっている。

数研出版は、キャラクターの対話形式で誤った考えに気づく発言や新たな疑問を示し、考えるきっかけを与える配慮がされている。対話を通して、数学的な見方、考え方を働かせる工夫につなげている。

日本文教出版は、既習事項の振り返りを設けたり、「見通しをもとう」、「考えよう」、「話し合おう」、「ふり返ろう」、「深めよう」という問題解決の過程が示されたりしている。さらに、「めあて」、「大切な見方・考え方」や「次の課題」を適宜示す工夫もされている。

最後に啓林館である。数学は啓林館を選定した。

啓林館は、単元の始まりなどでキャラクターが疑問に思ったことや気づいたことを対話する場面では、課題の発見や確認、考え方のきっかけまでに留めており、問題解決に目を向けている教科書会社が多い中では、生徒自身が主体的に問題を発見し、発想を導き出して解決する力を身に付けることができるような配慮がある。

また、教科書の表紙側からは、「みんなで学ぶ」、裏表紙からは「自分から学ぶ」といった両開きの2部構成になっており、生徒一人一人の実態に合わせて、主体的な学習が進められることが期待できる。

理科の教科書について説明する。5社の中から選定した。5社とも学習指導要領で示された中学校理科の目標、内容を適切に取り上げており、千葉県の教育施策である「生きる力」において、「主体的・対話的で深い学び」の実現にも適合したものであった。

東京書籍は、各節の導入で学習内容に主体的な学びを喚起している。生徒のキャラクター同士の対話が具体的に示されており、対話を豊かにしたり、深い学びを実現したりする工夫が見られる。

学校図書は、各単元の初めに「問題発見」を設けて、キャラクターの話合いの場面を多く取り入れたり、単元末で深い学びを実現する活動例を設けたりするなど、どのように学ぶかが分かるよう工夫されている。

教育出版は、観察、実験による探究の過程を通して、自分の考えを持ちながら、対話的な学びが実現できるよう工夫されており、言語活動や

体験活動を取り入れた学習活動が徹底されている。

啓林館は、単元の最初のQRコードから系統的な学習が行える構成になっている。また、科学的に課題を解決する手順に沿って、内容が学びやすいように構成されている。

最後に、大日本図書である。理科は大日本図書を選定した。

観察、実験による探究の過程を通して、主体的に深い学びが実現できるような構成になっている。そして、そのための補助実験や資料を充実させ、キャラクター同士のやり取りを例示するなど、豊かな対話から学びを深める配慮がなされている。

また、単元の最初が見開きで、既習事項や生活経験を写真やイラストを使って振り返ることができるような工夫があり、系統的に学習を進められるよう配慮されている。

続いて、音楽（一般）の教科書について説明する。2社の中から選定した。2社とも学習のねらいを明確に示すとともに、題材ごとの学習の見通しを示して、生徒が主体的に学べるよう配慮がされている。

教育出版は、目次に、「うたう」、「つくる」、「きく」が色分けされて示されていて、「学びのユニット」でねらいと曲の関連性が示されている。また、話し合う学習活動を豊富に示し、対話的な学びが展開されやすいように配慮されている。

音楽（一般）は、教育芸術社を選定した。

教育芸術社は、意見交流がしやすくなるようなキーポイントを示し、対話的な学びを引き出すような配慮がなされている。また、写真やイラストが中学生の心情に合わせた印象のものが多く、表紙をめくると著名な表現者からのメッセージ、次のページにも音楽、文芸評論家の小沼純一氏が「音楽ってなんだろう？」という題のコラムが掲載され、とてもメッセージ性が強い、音楽を学ぶ楽しさが広がるものとなっている。

音楽（器楽合奏）の教科書について説明する。2社の中から選定した。2社とも学習のねらいが明確に示され、生徒が主体的に学習できるように工夫されている。

教育出版は、26 ページ、「何が同じで、何が違う？」などのように、

対話的で深い学びができるような工夫がされている。

教育芸術社は、11 ページ、13 ページのように、「深めよう！音楽」が設定されていて、対話的で深い学びができるように工夫されている。

器楽は、教育芸術社を選定した。

教育芸術社は楽器ごとに各部の名称や奏法が詳しく、分かりやすい構成となっており、基礎的な技能を習得し、その奏法を使って演奏する曲が適切に配置されている。選曲が魅力的であり、子どもたちの積極的な活動が期待できると考えた。

数学、理科、音楽の説明は以上となる。

鈴木教育長 　　ただいま説明がなされた数学、理科、音楽についての質疑を行う。

委 員 　　数学についてだが、導入でつまずくと、ずっとつまずいてしまう可能性があり、そういう視点でみると各社違いがあるように思うが、どのようにこの啓林館を選んだのか。また、学力差も大きい教科となるため、初めから嫌いになってしまう子どももいるのではないかと思うが、得意な子どもにとっても、不得意な子どもにとっても、進められるような教科書となるのか。

鈴木教育長 　　数学は学力差が出てくる教科だと思うが、その辺りの配慮がなされている教科書なのか。

丸山指導課長 　　数学は、どの教科書も体験や実感を伴って学べるよう概要を理解できる工夫がなされている。

　　ただ、問題発見に着目しているという点が特徴的なのが啓林館となり、苦手な子どもにとっても問題を自分で発見していくという点では、有効であると思う。

　　学力差についても、啓林館は、考え方のヒントの与え方に大変幅があり、一人一人の状況に応じて柔軟に学習が進められるような配慮がなされているとの調査の報告があった。

委員 数学は、各社とも非常に工夫をされていると感じた。その中でも、啓林館は両面から使える構成となっており、自学自習もできる仕組みとなっており、非常に興味深かった。

委員 理科について、地元の千葉に関する写真や資料を多く扱っている教科書会社があれば教えていただきたい。

委員 地元千葉の写真を多く扱っているところがあり、写真の感じがよかった。

丸山指導課長 各社とも千葉県を多く取り扱っているが、特に多かったのは、大日本図書、教育出版、啓林館の3社で、3社とも最近話題になっているチバニアンについての掲載がある。

鈴木教育長 観察、実験が理科の基本であると思うが、探究の過程で優れているものはあるか。

丸山指導課長 理科にとって実験は、大変大切なものとなる。基本的な実験については、5社とも取り扱われている。大日本図書と教育出版社の2社が補充的、発展的な実験が数多く扱われている。「やってみよう」や「試してみよう」という形での扱いがあるため、生徒にとっては発展的な学習につながると考えられる。

委員 音楽についてだが、中学生になると高校受験もあるため、5教科以外が、手薄になってしまいがちだと思うが、この教科書で、生徒たちが音楽の楽しさを味わえるなどの工夫がされているのか伺いたい。

委員 教育芸術社は、選曲も子どもたちが関心を持てる、耳馴染みのある曲が掲載されていてよいと思う。

また、器楽合奏の教科書を見ていると、実際に楽器を演奏してみたいと思うような内容になっているが、教科書によって特徴があると思うが、その特徴について伺いたい。

鈴木教育長 選曲の工夫、そして、生徒が楽しいと思うための工夫、また、楽器の演奏技能向上のための工夫について、事務局に伺う。

丸山指導課長 まず、選曲について、調査委員によると、教育芸術社の曲数が10曲多くなっているという調査結果になっている。巻末の歌唱曲や合唱曲が生徒の興味、関心を大変引くものになっているという工夫がある。

教育出版社は、曲種が大変多様という特徴がある。

そして、音楽を学ぶ中での楽しいと思える工夫については、特に教育芸術社では、例えば1年生では、このように最近はやっている狂言を表紙にして、興味、関心を高めたり、マリア・カラスが情熱的に歌っている写真をダイナミックに載せて、そこから興味、関心を高めたり、また、生徒たちにとって身近なユーミンの写真を大きく載せて、さらに、そこに印象的な言葉を記述することによって、音楽って素敵だねというような興味、関心を高めている工夫がある。

また、楽器が弾けるようになることがすごく楽しいと思えることにつながることは、教育出版社は「まなびリンク」で、タブレット等を活用することで、演奏がすぐにできるような工夫がある。

教育芸術社では、デジタル教材を活用できるが、教科書に演奏上のコツやQ&A、そして練習の手順等が記載され、生徒が自ら見通しを持って取り組めるように工夫されている。

鈴木教育長 曲数が教育芸術社のほうが10曲近く多いが、音楽の時間数が減らされている中で、教材が多いことについて、どのように捉えているのか。

丸山指導課長 教科書は全てやるという考えではなく、曲数が多いことにより、合奏や合唱の選択肢がそれだけ広がるため、曲数が多いほうが良いと捉えて

いる。

鈴木教育長 ほかにないか。よろしいか。

それでは、次に、美術、保健体育、技術・家庭について、選定理由を伺う。

丸山指導課長 美術について説明する。美術は3社から選定した。

開隆堂出版は、多様な種類の作品や生活、社会との関連作品が掲載され、生徒の興味、関心を高め、生徒の多様な発想を引き出すような工夫がされている。

光村図書は、発想や構想の力を育てる手立てを重要視する表現が全体を通して示され、発想の仕方や表現技法など、具体的で分かりやすい構成となっている。

日本文教出版は、自ら課題を発見し、試行錯誤しながら解決方法を考えていく学習への工夫がされている。美術的な作品がダイナミックな大きさと掲載されており、生徒が興味を持って学習に臨めるとともに、作品の魅力に気づきやすい作りとなっている。

美術については、2市二様の結果となり、そのため、再度協議を行い、日本文教出版を選定した。

理由としては、日本文教出版は作品がダイナミックに掲載され、実物に近い色味での印刷、実寸大の掲載や実際の屏風のようにページを折ると本物のように見えるなど、体感を重視した構成になっており、感性を働かせながら学習しやすいものとなっている。

また、目標が評価の3観点で示されており、着目すべき造形的な要素の記載もあるので、生徒が目標を明確にして創作活動ができると考えた。

保健体育の教科書について説明する。4社より選定した。4社とも課題解決の学習過程を明確にし、主体的・対話的で深い学びとなるような工夫がなされている。

東京書籍は、グラフ資料が多く、数種類のデータを活用して考えることができる。デジタルコンテンツが豊富なことも特徴である。

大修館書店は、スポーツに関する写真や記事、中学生と年代の近い有名人のインタビュー等が充実しており、生徒の興味、関心を引き出す工夫がなされている。

学研教育みらいは、絵が多く、視覚的に学習内容を捉えることができる。「保健と情報」というコーナーでは、ウェブサイトやアプリの紹介をしており、学習内容を身近に感じられる工夫がされている。

最後に大日本図書である。保健体育は大日本図書を選定した。

見開きの左のページに本文、右のページに資料を配置し、端的に整理されており、全体が見やすい構成になっている。現代的な課題がバランスよく取り扱われており、日常生活と関連させながら、自然災害への備えや感染症の予防等について学ぶことができる。インパクトのある写真が多く、トピックスで興味を喚起する話題を提供するなど、主体的・対話的で深い学びが充実するための工夫がされている。

技術の教科書について説明する。3社の中から選定した。3社とも目標や目当ての記載があり、何を学ぶのかが分かりやすく、主体的な学びにつながられるよう工夫がされている。

教育図書は、「見つける」、「学ぶ」、「振り返る」の学習過程でまとめられており、「見つける」の場面では、生徒が主体的で対話的な活動ができるように工夫されている。そして、他の教科の学習や小学校とのリンクが掲載され、幅広い知識と教養が見につくように工夫されている。

開隆堂出版は、「気づく」、「はたらかせる」、「定着させる」の3つの活動で、主体的・対話的な学びが実現できるように、系統的、発展的な構成となっている。加工方法等複数提示されており、適切なものを検討する中で考えが深まる内容となっている。

技術は東京書籍を選定した。

東京書籍は、写真やイラストが豊富に掲載されており、生徒の理解を助けるものになっている。問題解決のプロセスが記載され、見通しを持った学習ができるようになっており、まとめについては断定的に示すのではなく、生徒に考えることを促すような書き方になっている。

プログラミングについては、適切な分量で、具体例が豊富であり、巻末のプログラミング手帳では、「Scratch」、「ドリトル」、「JavaScript」により、実際に体験するための手順等が示されている。

家庭の教科書について説明する。

3社の中から選定した。3社とも学習のねらいを明確に示すとともに、題材ごとの学習の見通しを示し、生徒が主体的に学べるよう配慮されている。

教育図書は、「見つめる」、「学ぶ」、「振り返る」で学習が設定されており、学習の流れが分かりやすくなる工夫がされている。また、図、表、写真、イラストが多数使用され、活動事例も多く、基本的な内容の定着が図られる工夫がされている。

開隆堂出版は、基礎、基本から発展、応用へと系統的に学習ができ、学習の流れがガイダンスに組み込まれたり、動画のQRコードが実習や製作ページごとに掲載されるなど、学習の定着が図られる工夫がされている。

家庭は東京書籍を選定した。

東京書籍は、2種類のキャラクターが教科書の中に登場し、生活の営みに係る見方、考え方と学習の進め方について案内しているため、理解しやすくなっている。地域の高齢者との関わり方や災害への対策に関する内容が充実しており、消費者教育、環境問題、バリアフリーなど、多岐にわたった現代的な課題について、主体的・対話的に学習できる配慮がされている。

また、難易度の異なる実習例が豊富で、生徒の実態や個に応じて学習内容を深められる工夫がされている。巻末に災害対策や幼児の発達に関する付録があり、課題解決学習や実生活に生かせる工夫がされている。

美術、保健体育、技術・家庭についての説明は以上である。

鈴木教育長 ただいま説明がなされた美術、保健体育、技術・家庭についての質疑を行う。

委員 市川と浦安の意見は同じことが多かったように記憶しているが、今回、美術が違う意見となった。科目ごとにそれぞれ、両市の先生方が集まり、調査・分析をされていると思っていた、今期に関しては、コロナ禍ということで、別々に調査、分析をされた結果によるものなのか。

丸山指導課長 調査研究委員の調査については、今年も2市で構成された調査研究委員が教科ごとに集まり、行っている。

ただ、その調査研究の結果について、採択の協議会の中で説明を受けて、各市で協議をするという形式のため、当初は、各市での協議では異なった結論になった。当初、市川市と浦安市では別々の教科書を選定し、再度協議したという経緯になる。

委員 日本文教出版だけが他社と違い、上下巻になっているが、何か意味があつてのものなのか。

丸山指導課長 上下2冊の作りになっている大きな特徴として、指導する側としては、よりたくさんの題材が準備でき、選択肢が広がるということが1つの大きな利点だと思う。それとともに、やはり2年生、3年生という学年による発達の違いもあり、それにも対応できるという利点もあると考えている。

委員 教科書を見たときに、すごくきれいなのは、日本文教出版であると思う。美術館に行くことのない子どもたちにも、きれいなものを印象づけることができる。今後の人生にとってもよい影響をあたえられると思う。

鈴木教育長 上下2冊で気になる点として、指導時間数が少ない中、教材が増えてしまうという点について、どのように捉えているのか。

丸山指導課長 上下2巻で教材数が増えるという点については、先ほどの音楽と同様に教科書に載っているもの全てを学ぶというよりも、いろいろな選択肢

の中から選び、その学校の生徒に合ったものを選べるという点では多いほうが良いという見解である。

それとともに、実物をなかなか見ることのできない子どもにとって、作品をより大きく見せるという点で、日本文教出版のほうが優れた表現の仕方をしていると思う。例えば屏風やゴッホの絵などもここまで大きく表現しているので、子どもたちが、作品のよさを授業の中で感じることができると考えた。

委員 私も日本文教出版の美術の見開きには大変驚き、非常に感動した。
保健体育についてだが、スポーツの部分は、結構教える幅が広く、先生方はどのように教えているのか。

鈴木教育長 保健体育についても、教材が多いが授業の時間数は少なくなっている。
保健の時間数はどの程度なのか。

丸山指導課長 中学校の保健の時間は、どの学年も1年間で16時間程度の指導となる。
そのため、非常に少ない時間の中で学習するため、教科書も厚ければいいというよりも、選定されていて、学びやすいものという観点で選んでいる。

また、時間数が少ないにもかかわらず、指導内容が幅広いという点については、教科書だけではなく、映像資料を活用したり、あるいは写真やイラストなども効果的に活用し、まずは生徒の興味、関心を高め、主体的な学習に結びつけられるような工夫をしている。

委員 家庭科についてだが、選定された東京書籍は、ほかの会社と違い、食からスタートしているが、これが授業に影響することはあるのか。

丸山指導課長 教科書の順番どおりに学習を進めなければいけないということはないため、各学校においては年間指導計画等を作成して、学校ごとに掲載の順と異なる指導も行っている。特に問題はないと考えている。

委員 技術のプログラミング教育について、3社で違いはあるのか。

丸山指導課長 どの教科書会社もプログラミングについては取り上げているが、特に東京書籍は、巻末にプログラミング手帳をつけている点が、一番特徴的であると思う。この中には3種類のプログラミングソフトにおいて、実際に体験するための手順等も示されていて、一番分かりやすく具体的に掲載されていると思う。

委員 東京書籍の情報量が非常に多く、充実されていると思ったが、やはり授業数に比べて内容が多過ぎるということはないのか。

丸山指導課長 技術についても、授業では生徒の実態に合わせた取り扱いとなるため、特に多過ぎるということはなく、必要な情報に焦点を合わせて、焦点化させて学びを進めていく形になる。

委員 家庭科の教科書全部に言えることだが、昔は衣食住しかなかったが、それに加えて幼児教育のことや消費者教育、環境教育など多岐にわたった項目も入っている。これからの子どもたちがこのような家庭科を学ぶことによって、豊かに暮らしていくということが想像でき、うれしく思う。

鈴木教育長 家庭科の教科書を全てマスターすれば、実生活で生活していけるという感じがする。

ほかにないか。よろしいか。

次に、英語、道徳の選定理由を伺う。

丸山指導課長 英語の教科書について説明する。

6社の中から選定した。

東京書籍、『NEW HORIZON』は、主体的・対話的で深い学びの実現のため

めに、何のために英語を学ぶのか、何を学び、何ができるようになるかという目的意識を生徒に持たせる手立てである CAN-DO リストが巻頭、本文、巻末に示されていることが特徴である。これにより、聞くこと、読むこと、やり取りをして話すこと、発表して話すこと、書くことの5領域について学びを振り返ることができる。

開隆堂出版の『SUNSHINE』は、各プログラムが4つの過程で構成されている。まず、漫画を使った具体的な場面で新しい表現を学び、次に、題材内容について考え、本文の内容を再現し、最後に、学んだ表現を活用して自己表現をするというように、習得、思考、表現の段階を踏んで、基礎、基本を定着させる作りになっている。

三省堂、『NEW CROWN』は、学年を追って難易度が徐々に上がっていくように文構造、文法事項、内容が系統的に選択、配列されており、発達段階に適合するよう配慮されている。

各レッスンは基礎的、基本的内容の習得、読む、書く、話す、習得した知識の活用、発表やディスカッションなど、統合型の言語活動を通して、思考力、判断力、表現力を育てるといった3つのステップで扱いやすい構成となっている。

教育出版、『ONE WORLD』は、各レッスンが3つから4つのパートに分けられている。目標、基本文を明示し、基本文の練習や聞き取りを行った後、題材について考え、表現する流れになっている。さらに、單元ごとに文構造を確認するなど、基礎から応用へ学びを積み上げることができるように配慮されている。

また、教科書で学んだことを自由に活用できるようにするための単語や表現例がまとめられており、即興で話す力を身に付けるために活用することができる。

光村図書、『Here We Go!』は、1年から3年まで本文に一貫したストーリーがあることが大きな特徴である。ストーリーは中学生が体験するような身近な話題を題材にしており、登場人物の成長物語が原動力となり、興味、関心を持って本文を読むことができるように考えられている。

啓林館、『BLUE SKY』は、ユニット内の各パートに学習到達目標が明示され、ペアやグループ活動を通して、主体的・対話的な学習ができるようになっている。また、技能ごとに学習できるよう、「Let's Listen」、「Let's Read」があり、集中して練習し、表現する学習を通して目標が達成できるようになっている。

英語は市川市と浦安市、2市二様の結果となったため、再度協議を行い、その結果、様々な分野から幅広い題材が取り上げられていること、実生活でも活用できる力を段階的に育成できる構成になっているということと、これまで使ってきたことによる教職員側と子どもたちの使いやすさを考慮して、三省堂を選定した。

次に、道徳の教科書について説明する。

道徳は7社から選定した。特別の教科道徳として教科化され、教科書を使った学習は2年目を迎えたところである。

東京書籍は、考え、議論する道徳を大切に、人間関係や人間としての生き方を深く考えるということに重点が置かれている。そのため、体験的な学習、問題解決的な学習、役割演技やグループエンカウンター、モラルスキルトレーニング等を各所に配して、多様な考えを引き出す構成になっている。キャリア、いじめ、命、SDGs等、多様な教材が提示されている。

教育出版は、生徒の学びに視点を当て、生徒の発達段階を大切にして、学校生活や学校行事、施設間と関連させた教材配列がされている。例えば、桜、入学式、挨拶といった生徒の日常と合致している。

1 ページ当たりの文字量、分量を抑えて、無理のない授業構成を意図している。いじめ、人権に重点を置いて、年間6から7の教材を扱っているところも特徴である。漫画、絵本、歌詞、新聞記事等、生徒の興味を引く教材がバランスよく配置されている。

光村図書は、生徒の日常に起こりがちな問題場面を設定し、読み物資料を通して、価値について理解や自覚を深める構成になっている。「考えよう」で心情理解の主発問を「見方を変えて」でより多面的、多角的に考えられるように提示されている。キャリアの視点を明確にして、現

代的な課題、特にいじめ問題、国際理解などに重点的にアプローチしている。また、ねぶたや屋久杉など、地域性を考慮した題材を幅広く扱っている。

日本文教出版は、芸術家、アスリート、作家などからリアリティーのある言葉で、生きた教材として多様な展開ができるように配慮されている。他の教科と教科横断的な展開と関わりを意図している。

いじめに向き合うような年間構成で、いじめの背景や構造といった科学的な視点で迫ったり、コミュニケーションスキル、SNS、個性といった間接的に迫ったりしながら、多方面からアプローチしていることが分かる。

よりよい社会を創造することに重点を置き、その当事者として生徒が考え、議論できるように、話し合い活動、写真なども使って展開している。ダイナミックな写真、地図、統計データなど、思考を援助し、発展、補充する資料が豊かで多岐にわたっている。

学研教育みらいは、学校内で起こる生徒の身近な題材から、地域、世界へ目を向ける題材、先人や先輩の活躍する題材には迫り方が多彩で、生徒の興味を引くとともに、学習を補充、発展させ、授業の構成がしやすく、興味の持てるものになっている。

命の大切さを重点にして、SDGs、キャリア教育など、現代的な課題も適切に配されている。特に選挙、ボランティア、安楽死、ごみ収集場所の設定など、正解のない問題にテーマを設定し、議論し、合意形成を図りながら問題解決をしていく構成となっている。

挿絵や写真、図、表など、紙面をダイナミックに活用して、生徒の興味を引きつけるものとなっている。現在使われているものをより改良して、コンパクト化もしている。

廣済堂あかつきは、身近な生徒の話題やいじめを教材として取り扱い、読み物教材が中心になっている。「考える・深める」活動を通して、人間としての生き方を深められるよう構成されている。

日本教科書は、教材の配列が内容項目のAからDの順に従って掲載されていて、生徒の身近な生活体験の教材について、読み物教材を中心に

据えられている。

道徳は市川市、浦安市、2市二様の結果となったため、再度の協議を行い、学研教育みらいを選定した。表題の前にあえて主題を提示しないことで、生徒に価値を押しつけず、生徒自身の気づきや考えを大切に考えた構成となっている。

また、多彩な題材で自己を見つめ、物事を広い視野から多面的、多角的に考え、人間としての生き方について考えを深めることが期待できる。

平成30年度に学研教育みらいが採択となり、中学校においては、令和元年度から今年の2年間使われている教科書であり、各学校では、教科書の資料を分析して、現在、年間計画をよりよいものにということで整えている状況であることも、これを選定した理由の1つとなっている。

英語、道徳についての説明は以上である。

鈴木教育長 ただいま説明がなされた英語、道徳についての質疑を行う。
最初に市川市と浦安市が選択した教科書が異なったという教科書である。
何か質問や意見等あるか。

委 員 英語についてだが、小学校では東京書籍を選択しているため、教科書会社が小学校と中学校で異なるが、このことに関しては問題があるということはないのか。

丸山指導課長 そこも教科書採択の協議会の中では議論になったところではあるが、三省堂についても、小中の接続については配慮された内容となっている。小学校で学んだことを復習しながら、次の学びへの導入ができるような作りになっている。

委 員 小学校は、東京書籍であるため少し気がかりであったが、指導課長からの説明にあったように段階を踏んでいることが感じられるため、中学を卒業後、高校の内容も垣間見られるような教科書の構成であった。この教科書を使っていると、高校生になったときに混乱したり、ハードル

が高いと感じることが少ないのではないかと思う。

大友教育総務部参事 外国語の教科書については、各学校からのアンケートによると、今使っている三省堂について、言語指導の流れに沿って、基礎的な内容で教科書が構成されているため、非常に使いやすいと感じているといった意見があった。

また、高校との連携についての話もあったが、各単元に長文が入っている点や CAN-DO リストとも連携している点など、肯定的な意見が非常に多かった。

一方、マイナス意見としては、例えば、小学校の教科書の復習内容がもう少し掲載されているといい等、小中の連携の部分で課題を感じているという先生もいる。

鈴木教育長 最後の意見については、中学校が小学校を意識し出していると捉えることもできる。

委員 道徳についてだが、いじめの問題を正面から捉えるなど、いろんな角度から捉えている日本文教出版などは、個人的にはとてもよいと思った。学研教育みらいは、この浦安に非常になじみのあるディズニーランドが取り上げられるなど、小学校から中学校に入ったときに関心を持って取り組んでいけるように思う。今回、学研教育みらいが選定されたが、まだ採択されて間もないこともあり、やはりもう少し同じ形で使用中で検証するという理由に納得している。

鈴木教育長 教科書の展示会ではどのような意見をいただいたのか。

大友教育総務部参事 今年度の展示会は、市役所7階の指導課の前で実施し、140名近くの方が来庁され、各教科の教科書について、アンケートにお答えをいただいた。

その中で、特に道徳については、始まって2年目ということも、授

業の在り方について、意見をいただいた。例えば、「評価すること自体が押しつけでよくない」や「自分で考えて交流する中で身に付けてほしい」などの意見もあった。

今、学研教育みらいの教科書を使っているが、その内容についても、先ほど委員からのお話があったように、1年生はディズニーの題材から始まり、浦安ならではの題材からスタートしていて、非常にいいという意見やタイトルの前に主題がないため、子どもたちが考え、議論する道徳の実践がしやすいなど、中身をよく読んでいただいた上で、アンケートに答えていただいている。

鈴木教育長 それでは、次に、特別支援教育について選定理由を伺う。

丸山指導課長 それでは、特別支援学校用、特別支援学級用の教科書について説明する。

令和3年度使用の教科書として選定された一般図書は、国語が44冊、算数・数学が27冊、生活・社会34冊、職業・家庭22冊、外国語6冊である。そのうち生活・社会の2冊、職業・家庭の1冊、合計3冊が今年度新たに選定された一般図書である。新しく入れた図書について説明させていただく。

まず、生活・社会の「運動が得意になる43の基本レッスン イラスト版体育のコツ」である。この本は、走り、縄跳び、鉄棒、マット運動、跳び箱、泳ぎの運動に分けて編集されている。そして、その一つ一つの運動につながる基本的な動きをイラストで分かりやすく示している。スモールステップで示されているので、協調運動の苦手な児童・生徒にもできることを実感しながら取り組める内容になっている。

今までも保健に関する図書はあったが、体育についての図書はこの1冊のみであり、すぐに実践に生かすことができると思う。

次に、「かお」という本である。この本は様々なモチーフの輪郭が描かれており、付属の顔パーツのシールを貼っていく作りになっている。顔の部位の名称を覚えたり、自分で考えて好きな顔を作ったり、シール

を貼ることで手、指の巧緻性を高めたりと、様々な狙いを持って取り組める図書になっている。

表紙には、はっきりとした色彩で大きく顔が描かれているため、見ることの苦手な児童・生徒にも印象に残るような図書になると思う。

最後に、職業・家庭の「つくってたべよう！お料理マジック2」である。この本はカラフルな色と写真を使い、火を使わずに作れるものを分かりやすく載せている。家庭科の要素だけでなく、食材の変化等も楽しみながら学べる本になっている。メニューもお菓子を中心に取り上げているので、作ってみたいという意欲が持てる内容だと思う。

続いて、文部科学省著作の特別支援学校用教科書、いわゆる星本について説明する。星5が加わり、星4の内容を膨らませたり、新しい内容を加えたりして、充実した中身となっている。

国語の星本は、新たに『江戸小話』が加わった。また、『日本を旅して』では、日本各地の名所や文化を取り上げており、日本の文学や文化に触れる内容が豊富に扱われている。また、言葉のページが星4、5共に含まれており、文法を学ぶ内容が新たに加わった。

数学の星本は、星4では3位数までの加減法、1桁の掛け算を図や絵を多く使って表されている。星5では、文章問題が多く取り上げられており、日常生活に生かせる内容となっている。また、図形に関する題材が増え、グラフでは折れ線グラフが加わった。単位にはデシリットルとミリメートルが加わっている。

音楽の星本は、星5に音楽の決まりが加わり、音符や記号に関する内容が加わっている。また、星4、星5共に絵や写真が多く、ダンスの動きも丁寧に絵で示されている。また、星本が2冊に増えたことで新しい楽曲も加わり、曲数も増え、興味、関心が持てる内容となっている。

特別支援教育においては、児童・生徒の実態が大変多様であること、そして、各学校で児童・生徒の実態に応じた選択を可能とする必要がある。また、どれも子どもたちの興味、関心を引き出す内容であり、発達障がいのある子どもにとっても必要なものが含まれていることから、文部科学省検定済教科書、文部科学省著作教科書、学校教育法附則第9条

の規定による一般図書、点字版教科書、拡大教科書の全てを一括して選定した。

特別支援教育についての説明は以上である。

鈴木教育長 ただいま説明がなされた特別支援教育についての質疑を行う。星本について説明いただきたい。

丸山指導課長 星本は、特別支援学級、特別支援学校で使用する教科書のこと、通常の教科書と異なり、子どもたちの発達に応じて作られており、中学校では、この星が教科書の表紙にあるが、星が4つのものと星が5つのものが中学校で使われるものとなる。

宮澤委員 全ての特別支援学級で使うことができるのか。

丸山指導課長 そのとおりである。特別支援学級は特に発達の段階や個に応じた支援、指導をするということが大事にされるため、ども星本がふさわしいかを教員が見極めて、使用している。また、保護者の意向もあり、専門機関からの助言なども参考に選定し、使用している。

鈴木教育長 次に、小学校教科用図書についての選定理由を伺う。

丸山指導課長 それでは、小学校の教科書について説明する。

小学校については、令和元年度に浦安市、市川市で協議をして慎重に採択を行い、今年度から使用している。教科書は同一の教科書を4年間採択しなければならないとされていることから、令和3年度も引き続き同じ教科書を選定することとした。

鈴木教育長 ただいま説明がなされた小学校の教科書についての質疑を行う。

委員 まだ、使用して1年目となるが、現場の各先生から意見などは上がった

てきているのか。

大友教育総務部参事 小学校、中学校、共に毎年教科書についてのアンケートを教員対象に取っており、教科書に関する意見は上がってきている。

委 員 途中で変えることはできるのか。

丸山指導課長 同一の教科書を使用することが決まっているため、同一の教科書を使っていく。年間指導計画等も各学校では確定して、それに基づいて指導しているため、途中で変えることはない。

鈴木教育長 同一の教科書を4年間使用するが、採択は毎年行い、この教科書を使用するという確認となる。

年間指導計画もあり、教科書は途中で変えるということが難しい。そのようなことから、法で定められていると理解している。

ほかに全体を通して、何かご意見あるのか。

それでは、これより議案第1号の採決を行う。

議案第1号について、事務局の説明のとおり、これを承認することとしてよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

鈴木教育長 異議がないので、議案第1号 令和3年度使用教科用図書採択については承認された。

以上で、令和2年浦安市教育委員会第2回臨時会を閉会する。

閉 会 (午後4時41分)